

平成23年度病害虫発生予報第4号

平成23年6月30日
愛 知 県

1 普通作物

イネいもち病は、6月下旬の巡回調査で葉いもちの発生を確認しました。また、BLASTAM（水稲いもち発生予測システム）による葉いもち感染好適日が6月中旬以降各地で出現しています。今後の気象状況に注意し、発生を確認したら適切に防除しましょう。各地の感染好適日など詳しくは、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

セジロウンカは、県内の本田で生息を確認しています。トビイロウンカの飛来および発生は現在のところ確認されていません。飛来状況等は、本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカメムシ類が、畦畔において平年より多く確認されています。日ごろから畦畔や土手などの除草を行い、カメムシ類の生息密度を下げ、出穂期以降の水田への侵入を少なくするように努めましょう。詳しくは、本日発表の「斑点米カメムシ情報第1号」を参照してください。

2 果樹

ナシ黒星病の発生が多い状況です。6月3日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第1号」を参考に防除しましょう。

モモせん孔細菌病の発生がやや多い状況です。風を伴う雨で発生が拡大します。早期落葉を避けるため、収穫が終わったほ場では防除しましょう。

ブドウべと病の発生がやや多い状況です。降雨が続くと急速に蔓延するおそれがあります。発生を確認したら、6月3日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第2号」を参考に防除しましょう。

粘着トラップにおけるチャノキイロアザミウマ誘殺数は平年並ですが、例年7月上旬に成虫の発生量が増えます。本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参考に、成虫発生ピーク時期に防除しましょう。

3 花き

キク（露地）白さび病の発生量は平年並ですが、曇雨天が続く、気温が低めに推移した場合、発生が多くなりますので注意しましょう。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量、日照時間は平年並 7月の気温は高い BLASTAMによる感染好適日が各地で平年並に出現した	± ± — ±
	紋枯病	やや多い	全域(早期栽培)	昨年の発生量はやや多かった 7月の降水量は平年並 7月の気温は高い	± ± +
	セジロウンカ	平年並	全域	6月の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	6月の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	カメムシ類	やや多い	全域(早期栽培)	畦畔における6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	± +
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	± +
	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	やや少ない	全域	第1世代幼虫の発生量はやや少ない	—

・ 防除対策

[イネ・紋枯病]

バリダシン液剤5、モンカット粒剤などで防除しましょう。

[イネ・カメムシ類]

防除対策等詳しくは、本日発表の「斑点米カメムシ情報第1号」を参照してください。

[イネ・フタオビコヤガ(イネアオムシ)]

多発生ほ場ではMR.ジョーカーEW、スミチオン乳剤などで防除しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並	— ±
	黒点病	やや少ない	全域	孢子形成量はやや少ない 7月の降水量は平年並	— ±
	ミカンハダニ	平年並	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温は高い	— +
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量はやや少ない	± —

ナシ	黒星病	やや多い	全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並 7月の気温は高い	± ± -
	うどんこ病	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±
	シンクイムシ類	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	± ±
	灰星病	平年並	全域	4月の花腐れの発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	6月の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	± -
	ハダニ類	やや多い	全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並	- ±
	べと病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並	±
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	平年並	全域	昨秋の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	少ない	全域	6月の発生量は少ない	-
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数は少ない	-

・防除対策

[ナシ黒星病]

6月3日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

[ナシ・ハダニ類]

多発生園では、マイトコーネフロアブル、タイタロンフロアブルなどで防除しましょう。

[モモせん孔細菌病]

多発生園では早期落葉を防ぐために収穫後にアグリマイシン-100、アタッキン水和剤などで防除しましょう。

[モモ・ハダニ類]

多発生園では、早期落葉を防ぐために収穫終了後にカネマイトフロアブル、コロマイト乳剤などで防除しましょう。

[ブドウべと病]

6月3日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

花き

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	アザミウマ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台6月24日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 20% 平年並 : 30% 高い : 50%

〔降水量〕 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%

〔日照時間〕 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月の天候は、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は気圧の谷や梅雨前線の影響が平年より弱く、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

農薬危害防止運動実施中 (6月1日から8月31日まで)

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

○ 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

○ 農薬の飛散防止に努めましょう。

- ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

○ 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

- ・ 農薬は、「普通物」と「毒物」「劇物」を区別して、鍵の掛かる場所に保管しましょう。
- ・ 農薬散布の準備中も、畑やハウス、自動車などに安易に放置せず、適切に管理しましょう。